

所報



特集 ICT 授業活用

巻頭言

ここから始める ICT 授業活用

玉川大学学術研究所 准教授 堀田 龍也



ICTが得意な教員が、他の教員にはなかなかできないテクニックを用いて授業をします。海外と交信するなど、普段の授業ではあまり行わないような特別な内容で授業をします。ハイテクを駆使したこのような授業を観て、多くの教員は、「自分にはICT活用は無理だ。」と思いついてしまっているかも知れません。

先端研究にはそれなりの価値はありますから、これらの授業が否定されるべきではありません。しかしICT活用はすでに普及の時代を迎えています。したがって、**誰にでも無理なくできることが最優先**される必要があるのです。

授業においてICTを活用する場合は、当然ながら、その授業がさらによくなるために使うべきです。授業がさらによくなるとは、子どもたちがさらによくわかるようになり、さらにできるようになることです。授業をよくするためには、ICTを活用することによって今まで以上に教員が教えやすくなるということも含んで考える必要があります。したがって、教員の多くが行っている従来の授業スタイルを変えないICT活用が望ましいのです。**脈々と受け継がれてきた授業技術にICT活用を少し付け足して、それなりの効果を得る**という考え方が現実的です。

その意味では、教員に対して難し過ぎるICT操作を求めるべきではないし、多忙な中で**ほんの少しの研修ですぐに使える**というICT機器であることが必然となります。

全国のこれまでの授業実践を見る限り、**ICT活用の第一歩は、実物投影機とプロジェクタの組み合わせ**です。ここから始めた学校では間違いなくICT活用が普及しています。

実物投影機とプロジェクタの組み合わせでのICT活用は、**これまでの授業スタイルをほとんど変えません**。そして、**子どもたちは確実に「よりわかる・よりできる」方向に向かいます**。これまで口頭で何度も繰り返し説明し、しかしながらなかなか通らなかった指示が即、通ります。よくわからないと学習意欲を失っていた子どもたちが「わかった!」という声を上げます。子どもたちのうれしい顔を見ることは教員の何よりの喜びですから、教員はICT活用の有効性を強く感じるようになります。

あなたもぜひ実物投影機とプロジェクタの組み合わせによるICT活用から始めてみましょう。授業を真剣に考えている教員なら必ずその有効性を実感するはずです。

も く じ	○ 特集 ICT授業活用	
	巻頭言	P1
	実践紹介 「ICT授業活用講座—プレゼンテーション編—」	～受講後、私も取り組んでいます～ P2
	「ICT授業活用講座—デジタルカメラ編—」	～受講後、私も取り組んでいます～ P3
	ICT授業活用の校内研修を紹介します	P4
	○ 教育研究, 教員長期研修生の紹介	P5
○ 教育センターひろば (土曜開館・開館時間の延長, 館内作品展示の紹介)	P6	

特集 ICT 授業活用

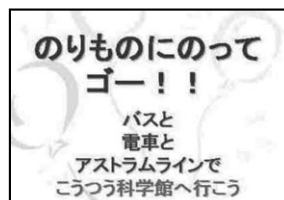
「ICT 授業活用講座 —プレゼンテーション編—」 ～受講後、私も取り組んでいます～

亀山南小学校 藤原 美奈恵 教諭

第2学年生活科の単元「野菜の花や実の観察」の場面でデジタルカメラを使いました。畑での観察を終えた後、カメラで接写した野菜の花や実をテレビに映し、「これは何の花でしょう？」とクイズに答える形で、確認しました。畑で見た時にはしっかり観察できていなかった子も、テレビに映すと興味をもって見ていました。花だけを大きく拡大したり、葉や茎、実など全体も映せたりするので、とても便利です。

単元「のりものによってゴー!!」では、アストラムラインの切符の買い方のイメージをもたせるために、プレゼンテーションソフトを用いた教材を作成しました。

コンピュータやデジタルカメラを使うことに苦手意識をもっていた私は、なかなか自分のものにできませんでした。今回、難しく考えずに使ってみたところ、子どもたちがとても喜んでくれ、これがまた自信にもつながりました。



早稲田中学校 鳴戸 裕子 教諭

ICTを活用した二つの授業で、生徒が映像を一心に見る様子から、「作る楽しさ」「共に見る楽しさ」を体験しました。

まず、『平家物語』の導入の場面では、物語の世界を豊かにイメージし、無常観を感じてくれることを願って、物語をコンパクトにまとめたダイジェスト版をデジタルカメラで作りました。生徒は、色彩豊かな絵を見ながら、『平家物語』の世界に入り込むことができましたようです。まさに「一瞬にして見てとれる」映像の力というほかありません。生徒が個々の資料をあれこれ開いて見るよりも、一つのを全員で見ることで、想像力が豊かに広がっていくと感じました。

また、次の単元ではプレゼンテーションソフトを用いて漢文の読み方を説明してみました。映像で強調して見せることで、返り点のルールなど、分かりやすく理解できたようです。生徒が口々に「漢文の読み方がよく分かった。」と言っていたことでICTを授業に活用することにより、漢文の読み方が、生徒の脳裏に強く焼き付いたと感じることができました。



戸坂城山小学校 森澤 真一 教諭

- 講座を受講して、より効果的な教材を作成する方法を学ぶことができました。また、講座で提供を受けた「1㎡は何cm²」というプレゼンテーション教材を自分のクラスで使用してみました。

「1㎡の中に1cm²があんなにあるなんてびっくりした。」

「とても分かりやすかった。」と、児童に好評でした。

日浦小学校 斉藤 明子 教諭

- 堀田先生の「積み重ねてこそ意味がある。」「すべての先生方ができるICT活用を。」というお話を聞き、この言葉をキャッチフレーズにすれば、職場の周りの先生方に、ICTの授業活用を広めていくことができるかもしれないと、明るい見通しをもつことができました。紹介されたフラッシュ型教材（フラッシュカード）を実際に使ってみると、準備も、授業での活用も、だれでも簡単にできるものだということが分かりました。

特集 ICT 授業活用

「ICT 授業活用講座 —デジタルカメラ編—」 ～受講後、私も取り組んでいます～

運動のイメージをもつ

自分の動きを観察する



どれどれ、どんな動きをしてたかな？パソコンにつないで見てみよう。

三篠小学校 小松 慎也 教諭

マット運動などの器械運動は、技ができるようになった達成感を味わうことができる单元なので、一人一人の児童が、できるだけ多くの技に挑戦し、**達成感を味わってほしい**と思い、ICT機器の活用を試みました。

例えば、学習に入るまでに、技の名前を正確に覚えたり、運動の内容をイメージしたりするために、教室にパソコンを設置し、いつでも、挑戦したい技の模範演技を視聴できるようにしました。

また、自分の動きを客観的にとらえ、技の向上に役立てられるように、デジタルカメラの動画機能を活用し、演技後すぐに自分の動きを振り返ることができるようにしました。

ICT機器の活用によって、**運動をしたいという意欲が高まるとともに、動きを視覚的にとらえ、イメージする能力も高まりました。**

他教科においても、授業の内容をより具体的にとらえさせ、分かって楽しい授業づくりに、ICT機器は必要不可欠であると考えます。今後も、ICT機器の特性を授業に生かしていきたいと思っています。

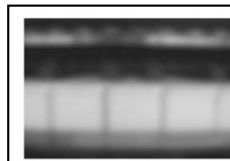
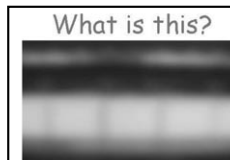
矢野中学校 奥本 弘佳 教諭

これは、中学校第1学年の英語の授業で、「what」を導入するときに使用した写真です。生徒の教材への興味付けを行うため、ピアノや時計をデジタルカメラで撮影し、「ぼかし」や「切り取り」といった画像加工をしました。それをフラッシュカードとして使い、「What is this?」と問いながら、右図のように上から順に段階的に写真を見せ、英語で答えさせる活動を試みました。

このように、写真の画像を加工し、それを段階を追って見せることで、クイズをする感覚となり、生徒は興味をもちやすく、**次のペア学習**（一方が「What is this?」と問い、もう一方がそれに答える活動）も意欲的に取り組みました。

私はパソコン操作が苦手です。そんな私にも、視聴覚教材で工夫できるものがあればと思い、受講しました。様々な画像加工の仕方を教えていただきましたので、工夫して活用していきたいと思っています。

English Quiz What is this?



梅林小学校 山本 静 教諭

- 受講してみて、これは使えると思ったのが、デジタルカメラを三脚に固定し、教材提示装置として使用する方法でした。児童のノートや小さな物も、すぐにテレビやプロジェクタにつないで、大きく見せることができます。**気軽に使える強みを改めて感じました。身近な物をすぐに大きく映し出すことで、児童はより興味・関心をもつようです。**普段から、携帯電話のデジタルカメラ機能を使って学級通信や、ホームページ用の写真を撮影してきましたが、これからもどんどん活用していきたいと思っています。

幟町中学校 今田 克則 教諭

- 情報化社会に適応した生きる力を育成するには、クリエイティブな映像、音響等のデジタル機器を活用した授業改善が必要だと実感することができました。現在学校だよりを担当していますが、**デジタルカメラを常に携帯し、学校の様々な表情を逃さず、ホットな情報を提供しています。**保護者、地域の方に学校だよりを楽しみにしていただいております。

特集 ICT 授業活用

ICT 授業活用の校内研修を紹介します

〈◆…なぜ ICT 授業活用か、取り組むきっかけなど ★…校内研修会の内容〉

白島小学校 常國 清 校長

◆ 教育効果を上げるために、ICTの授業活用に取り組んでいます。そのために、「いつでも」「どこでも」「だれでも」使えるICT環境の整備を推進しています。

★ 本校では、ICTを授業改善推進の一手段と考え、全教員が提案授業をします。授業後の研究協議会では、研究主題「共に学び合う子どもを育てる -放送・機器の活用を通して-」に迫るための工夫や手だてについて、議論を焦点化させています。取り組んでみて、授業の中のICT機器の活用場面とその活用効果が明らかになりつつあります。



福木中学校 香川 豊志 校長

◆ 「分かりやすい授業を行い、生徒に学力をつけたい。」教師ならだれもがもつ願いであり、そのための工夫もそれぞれで努力し、行われていると思います。その工夫の一つとして、ICT機器を利用してみようというのが、本校でICT授業活用に取り組み始めたきっかけです。

★ 本校では簡単な活用方法の研修から始めました。例えば、教室にあるテレビにデジタルカメラをつなぎ、教材を提示する。そうすることで、実際の授業場面では、集中して画面に見入っている生徒の姿が見られました。「簡単なことでもいい。」「できることから始める。」ここからではないでしょうか。



城山中学校 田中 利明 校長

◆ キーワードを「生徒と生徒をつなぐ」「教材と生徒をつなぐ」とし、生徒の「困り感」に注目した授業改善に取り組んでいます。そのための一つの方法として、ICTを活用した授業づくりに力を入れています。

★ 1 大学教授を招聘し、上記のキーワードに基づく授業研究の実施
2 生徒の「困り感」を解消するための研修会の実施
3 ICTの効果的な活用方法について研修会の実施
4 教育センターのICT授業活用に係る研修講座への全教員の参加
5 他校の授業研究会への全教員の参加
など幅広く研修を行っています。



広島市のICT授業活用に係る取り組み

「分かる授業」で「確かな学力」を！—ICTを活用した授業づくり—

広島市では、教育の質の向上を図るため、21校のモデル校を指定し、ICT支援員の派遣などにより、学校のICT化を推進する「教育情報化総合支援モデル事業」を実施しています。

ICT先端都市の将来を担う子どもの育成を目指し、小学校段階から、ICTを活用するとともにメディアと正しくかかわる力の育成に重点的に取り組んでいます。また、ICTの活用により「分かる授業」を実現するとともに、「情報活用の実践力」をはぐくむことにより、来年度から全面实施する「ひろしま型カリキュラム」の目指す、思考力・判断力・表現力を育成します。

教育センターは、本年度も、本市における緊要な教育課題の解決と、教育活動の充実・向上に活用できる調査・研究を、教育実践に即して行っています。

教育研究

ひろしま型カリキュラム導入に係る研究

研究担当者 主任指導主事(専)主任 藤村 和彦
 指導主事 堂鼻 康晴
 指導主事 浜田 龍治
 研究協力校 袋町小学校
 千田小学校
 古市小学校
 五日市南中学校

人材育成を促す校内研修の在り方に関する研究

—教師の行動変容プロセスを位置付けた協議会マネジメントを目指して—

研究担当者 主任指導主事 島本 圭子
 指導主事 正原 直行
 指導主事 清水 剛
 大学指導教官 広島大学准教授 曾余田浩史
 研究協力校 本川小学校
 中広中学校

教育用コンテンツの開発・活用に関する研究

研究担当者 主任指導主事(専)主任 住吉 磨
 指導主事 野上 真二
 大学指導教官 広島市立大学教授 前田 香織
 研究協力員 世良大典(翠町小) 塩田昌史(中筋小)
 宮脇隆博(山本小) 益井 修(梅林小)
 吉川洋介(亀山南小) 大上隆之(湯来南小)
 田原佑社(本川小) 小林正平(早稲田小)
 小西潤児(牛田小) 福永 徹(宇品小)
 伊藤謙一(三篠小) 井藤 剛(緑井小)

道徳の指導計画と授業の在り方に関する研究

研究担当者 指導主事 胤森 裕暢
 大学指導教官 広島大学准教授 鈴木由美子
 研究協力校 狩小川小学校
 仁保中学校

個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成と活用の支援に関する研究

研究担当者 指導主事 戸田 美鈴
 大学指導教官 広島大学准教授 若松 昭彦
 研究協力員 蔦 憲司(中山小) 頼信直枝(南観音小)
 原小百合(安佐南中) 宮本ゆかり(三入中)
 瀬戸幹夫(広島特支) 濱本 健(広島特支)

教職経験3年次までの教員を対象とした研修の在り方に関する調査研究

研究担当者 指導主事 高田 尚志
 大学指導教官 広島大学教授 林 孝

指定都市教育研究所連盟第16次共同研究

—指定都市の子どもの姿や思いを探る—

研究担当者 指導主事 土井 延久

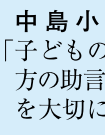
船越幼稚園 教諭 相原 英子

「出会いを大切にし、今までの自分を振り返り、新しい教育の流れについて理解を深める機会にしたい。」



幟町小学校 教諭 東 健一郎

「研修を通して授業を構築していく力、分析する力など、実践に活用できる理論を身に付けたい。」



中島小学校 教諭 土手 美由紀

「子どもの思いやつぶやきを聴く、先生方の助言を聴く等、いろいろな『聴く』を大切にする自分に成長したい。」



川内小学校 教諭 川島 仁氏

「教育に関する理論に幅広く触れたり、これまでの取り組みを振り返ったりして、授業改善を図りたい。」

教員長期研修

本年度は、10月1日から9名の先生方が、6か月間の研修に取り組まれています。

この長期研修では、授業(保育)実践及び授業(保育)分析を通して、授業(保育)において**高度な専門性**をもつとともに、授業(保育)実践を**的確に分析・評価**する力を向上させることを目標としています。

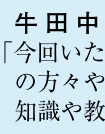
大塚小学校 教諭 黒田 章弘

「これまでの実践を振り返り、幅広く教育理論に触れることで、これからの教育実践の方向付けをしていきたい。」



三入小学校 教諭 塚廣 洋子

「初心にかえり、できるだけ多くのことを吸収したい。6か月後に一つでも多くできることを増やしたい。」



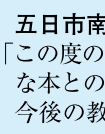
牛田中学校 教諭 廣田 真希恵

「今回いただいた研修の機会に、センターの方々や長期研修生の仲間と交流を深め、知識や教養を吸収して、成長したい。」



矢野中学校 教諭 奥本 弘佳

「様々な人との出会いを通して、自分自身を振り返って原点に戻り、いろいろなことを吸収していきたい。」





五日市南中学校 教諭 八谷 玲子

「この度のセンターの方々のご指導や様々な本との出会いを自己形成の一助とし、今後の教師生活に生かしたい。」




教 育 セ ン タ ー ひ ろ ば

土 曜 開 館 (毎 月 1 回)

9:00	マイ・セミナー	◆ 学習指導, 学級経営, ICT活用等, テーマに基づいた研修を実施しています。		<p>受講者の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ マイ・セミナーで発問の大切さを学び, 主要発問の工夫に取り組んでいます。発問の工夫により, 子どもたちが一生懸命考えている場面が増えてきました。 ○ 教えてもらった構成的グループエンカウンターをクラスで行っています。週1回程度ですが, 子どもたちも楽しそうに取り組んでいます。 ○ 教室環境づくりの大切さが分かりました。早速, 教室に「秋みつけのコーナー」をつくり, 子どもたちといっしょに楽しんでいます。 	
		回	期 日		テーマ・内容
		1・2・3	5/16,6/20,7/11		シリーズ学習指導
		4・5・6	9/12,10/17,11/14		シリーズ学級経営
	7	12/19	明日から役立つPowerPoint演習		
	8	1/16	明日から役立つExcel演習		
12:00					
13:00	サタデー広場	◆ 教職経験3年次までの先生方が対象です。写真は, 持ち寄ったビデオを基に, みんなで授業研究し, 気づきを述べ合っているところです。		<p>参加者の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業ビデオを見せてもらいながら自分自身の授業を振り返りました。まずは効果的な机間指導を心がけて授業を進めています。 ○ 相談にのってもらった運動会の表現。実際に入場の工夫を取り入れてみました。当日は, 皆様にとっても好評でした。 	
16:00					

開 館 時 間 の 延 長 (長 期 休 業 中 以 外 の 毎 週 水 曜 日)

17:00	開館時間延長	◆ 長期休業中以外の毎週水曜日に開館時間を 午後8時まで 延長して, ご利用いただいています。		<p>利用者の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遅い時間に開いていて利用しやすいです。 ○ 資料をゆっくりと探すことができました。
		<p>水曜日は  午後8時まで開館</p>		
20:00				

館内の展示作品が, 研修のひととき, 心を潤してくれています



- 広島市立幼稚園・学校の先生方の作品を58点, 展示しております。センターにお越しの際は, 是非, ご覧ください。

編 集 後 記

本年度第2号が完成しました。
 今回の特集は, ICT授業活用です。「もっと知りたい」と思われた方は, 教育センター内部Webページを見ていただいたり, 相談したりしていただければ, よりニーズにあった情報を提供することができます。

編 集 ・ 発 行 / 広 島 市 教 育 セ ン タ ー

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
 T E L (082) 223-3563 F A X (082) 223-3580
 E-mail: center@edu.city.hiroshima.jp
 外部Webページ: <http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/>
 内部Webページ: <http://192.168.9.12/>

題字: 大州小学校校長 長谷 哲郎 表紙絵: 観音中学校教諭 川崎 裕生

広X6-2009-160(2) 再生紙を使用しています